

風薫る五月となりました。密閉を避けて窓を開けていますが、爽やかな風が入ってきています。新型コロナウイルスが一時ほどではありませんが、まだまだ流行しています。日本では北海道、海外ではドイツが第2波の流行に見舞われていますが、まだまだ第2波、第3波と長い対応を余儀なくされると思われま

す。そんな中で当苑はみんなで工夫を凝らして、利用者さんの便宜を図っていることを誇りに思います。

一昨日(29日)の魁新報の短歌欄に、潟上市の昭和歌会の作品が載っていましたが、こんな短歌に目が留まりました。

ウイルスが施設の老母(はは)から引き離すに会いたい思いさらにつのれり 中田保子

多くの施設はこのような状態かと思えます。インフルエンザ対応から新型コロナと5か月以上、まさに施設のロックアウト状態。何年か前のわが施設もこの状態でした。入所者さんをご家族は引き離されたままです。昨日名古屋の弟がどうしている、と電話をよこしましたが、施設にいる義父と何か月も会えずにいると嘆いていました。

当苑が1週間前から開始した窓越し面会、同じ空気を共有せず、会話はトランシーバーで、という方式ですが、すでに10人を超える方がこの方式を利用いただき、双方大変喜んでくれています。

今、遠距離の方も顔を見て話ができるようにネット面会の設備に取り掛かっています。今月下旬には実現可能となりますが、こうすれば鈴木勇吉さんご夫婦のように、東京や北海道の息子さんたちとも話ができるでしょう。



次に入所者さんの受診のことです。かなりの方が複数の医療機関を受診していらっしゃるんですが、本当に必要か、当苑で対応できることも

多々あります。惰性でそのまま続けることなく、私も担当の医師と話して必要なものに絞ってゆこうと思います。ちなみに4月は日赤病院6件、中通病院2件、市立病院1件、平野眼科1件の計10件でした。職員の手間も大変ですし、受診者の疲労もばかになりません。治療よりもケアの年代に入っている方が大多数です。見直しに取り組みます。

今日から看護介護ステーションと事務の方が2班に分けて勤務となります。出来るだけ接触者を限定して、施設機能がマヒしないためです。新しいことでの取り組みですので、問題も多々出てくるとは思いますが、「大変だ、大変だ！」と大騒ぎしないで、また、新しく手数のかかることはできるだけ少なくして運用をお願いします。アイデア豊かな皆さんのことですから、きっと安定した運営に遠からず到達すると思えます。

以上3点を申し上げて月初めの挨拶とお願いとします。

以上

山盛苑の今までの対応（4/7～5/13）

冬季間も感染対応しつつ、ほぼ通常の面会形態を維持

4/7 政府 7 都府県に新型コロナウイルス感染症非常事態宣言

4/8 上記を受けて看取り状態を除き、全面面会禁止

4/10 W e b 面会の検討

4/11 全国新規感染者 719 人のピーク

4/16 政府 上記を全都道府県を対象に発出

4/20 W e b 面会の準備にかかる

4/22 定例運営会議で W e b 面会の決定とガラス越しの面会方法を検討

4/23 さきがけ新報 「くらし」欄に県内高齢者施設面会について掲載

4/24 ガラス越し面会始まる（鈴木新子さまご家族 2 名が中庭から）

5/1 月初めの全体朝礼で W e b 面会の準備、ガラス越し面会の実施を伝達

5/8 さきがけ地域面に秋田市の特養「やすらぎホームけやき」の W e b 面会紹介される

午後 さきがけ文化部斎藤ゆき記者から連絡

5/9 さきがけ文化部斎藤ゆき記者取材に来訪

5/13 さきがけ「ふきのとう」欄に掲載

5 月下旬 W e b 面会開始予定

